

(提案書 様式①-1)

<h2 style="margin: 0;">協働の機会提案書(新規提案用)</h2>	
<p style="margin: 0;">2018年 9月 25日</p>	
<p style="margin: 0;">印西市長 板倉 正直 様</p>	
<p style="margin: 0;">(登録者) 登録番号 30 — 001 名称 こむnet ちば 所在地 印西市若萩 代表者職氏名 代表 安齋 美幸 ㊞ 連絡先</p>	
<p style="margin: 0;">企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。</p>	
<p style="margin: 0;">提案事業名</p>	<p style="margin: 0;">訪問傾聴ワーカー(見守り隊)養成講座</p>
<p style="margin: 0;">現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)</p>	<p style="margin: 0;">今年10万人を超え、若い世代が増える一方で、高齢化率が40%を超える地域もある。アンケート(民生委員対象)によると、高齢者への支援(81.1%)が市民からの要望で一番多く、後継者がいないこと(66%)、地域コミュニティの希薄化、地域との情報交換が少ないことが、困っている。地域包括支援センターは各圏域にあるが、どこに相談をして良いかわからない高齢者や話し相手になって欲しい高齢者もある。よって、コミュニティが希薄になっており、支援の手も足りないが、高齢者支援は市民から必要とされている現状があり、課題と考える。</p>
<p style="margin: 0;">提案理由</p>	<p style="margin: 0;">現状から高齢者の社会的孤立防止のために、今回、定期的に訪問傾聴をし、何かあれば制度やサービス機関、窓口に関ぐ社会資源が必要と考えた。</p>
<p style="margin: 0;">提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p style="margin: 0;">高齢者へのボランティアとして必要な知識(ボランティア論、障害者、高齢者理解)や傾聴に必要な知識(傾聴、精神疾患への傾聴)を学び、課題があれば、窓口に関げられるよう、制度等も学び、訪問傾聴+ワーカーができる人材を養成することを提案する。(予算 50万円)</p>
<p style="margin: 0;">貴団体の特性、協働で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</p>	<p style="margin: 0;">発達障害理解講演会(6月9日)、ジェンダー講演会(10月20日予定)等を企画運営しており、毎月2回あるカフェも、1月から始め7月までに、12回の講座やワークショップを開催。社会福祉士、産業カウンセラーの有資格者もあり、松戸市、流山市、新宿区など的高齢者や生活困窮者等の支援団体、ジェンダーの団体とも繋がっている。講師も依頼予定、打診済み。</p>
<p style="margin: 0;">事業実施により得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)</p>	<p style="margin: 0;">事業実施後は、高齢者支援をする社会資源の1つとなり、民生委員の補完的な存在にもなり得る。北部、南部、船穂・牧の原などの地域包括支援センターと連携し、定期的に訪問傾聴をすることで、認知症や詐欺の早期発見などにも繋がる。 また、昨今、包括支援センターでは、高齢者相談から、子どものひきこもり等の相談もあると聞くため、そうした家族に対して、生活困窮者自立支援事業との連携も可能と考える。</p>

(提案書 様式②)

協働事業計画書			
事業名	訪問傾聴ワーカー(見守り隊)養成講座事業		
事業の目的	印西市の現状から、高齢者の社会的孤立防止のために、今回、定期的に訪問傾聴をし、何かあれば制度やサービス機関、窓口に繋ぐ訪問傾聴ワーカー(見守り隊)の養成を目的とする。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 地域ぐるみで高齢者を支える見守り・予防・介護の仕組みづくり (部署名) 高齢者福祉課		
事業期間	平成31年 4月 1日 ~ 平成 32年 3月 31日		
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)	提案者	市	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座プログラムの作成 ・ 参加者募集 ・ 講座・研修の実施 ・ 情報提供 ・ 参加募集受付 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉に関する情報提供 ・ 参加者の募集協力 ・ 必要機材の調達・貸出 ・ 市公共施設の提供 ・ 関係機関との調整・仲介 ・ 講師協力 	
事業に要する経費 <small>※詳細については、様式③による</small>	67,800 円	633,100 円	
事業の運営体制 (事業関係者、協力者、有資格者など)	実績ある講師を招き、団体内の有資格者(社会福祉士、産業カウンセラー、ヘルパー、行政書士等)と情報を共有し、専門性を活かして講座の企画をする。講座の運営自体は団体で担う。		
協働のメリット (各立場にとっての効果を簡潔に)	提案者	市民	市
	今まで高齢関係、金銭教育、発達障害、などの講座を運営してきた実績を活かし、市との協働により、事業の信頼度が上がる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者は、制度を知ることが地域活動を活かすことができる。 ・ 制度を知る市民が地域に存在することで、市民にとって安心・安全の場となる。 	ますます高齢化が進む中、福祉的人材を育てることができる。
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	募集状況、講座の進捗状況など、市への報告とともに、講座前などは定期的に会議を行い、その他、メールで補う。		
事業の周知や評価の方法 (具体的な目標値など)	市広報・HP等に募集掲載をする他、公共施設等へのチラシを設置する。 募集人数は、30名程とし、講座終了後の訪問傾聴ワーカー(見守り隊)としての活動のための登録を条件とする。講座プログラムについては、別紙参照。		
備考	関係団体等		
	その他(添付書類等)		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 2,125,900 円

市から団体への委託費 （金 633,100 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費、報償費、旅費、印刷製本費、消耗品費、通信費	633,100
その他収入	参加費 1000 円(保険料、一部食糧費 13,200 円含む)×30 人	30,000
提案者負担分	一部食糧費	67,800
無償労働力等換算金額		(1,395,000)
合 計（無償分を含めない）		730,900 円
無償分を含めた合計額		(2,125,900)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費(※)	内部講師料(40,000 円)、会員交通費(19,500 円)、 事前交通費(9,000 円)、講座補助費(129,600 円) プログラム作成費(210,600 円)	408,700
報償費(※)	外部講師指導謝礼 5 回*20,000 円、2 回*15,000 円	130,000
旅費(※)	外部講師交通費 5 回*3,000 円	15,000
印刷製本費(※)	周知チラシ(6000 枚)、資料印刷、ワーク材料費等	30,000
消耗品費(※)	えんたくん、修了証用紙、インク代、ネームプレート他	32,000
通信費(※)	切手代 92 円×30 人分×5 回分、120 円×30 人分	17,400
食糧費	講師昼食代(1500 円×7 人分)、飲み物代(150 円×15 個)、参加者飲み物代(150 円×30 人×13 回)、参加者 飴等(500 円×13 回)等	81,000
保険料	ボランティア イベント保険 20 回*28 円*30 名	16,800
提案者が負担する 無償労働力	900 円*5 時間*60 日*5 名=1,350,000 円 (事前の準備・調整 チラシ配布等 含む)	(1,350,000)
提案者が負担する 無償機材等	車両 500 円*30 日*3 台=45,000 円	(45,000)
合 計（無償分を含めない）		730,900
無償分を含めた合計額		(2,125,900)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	参加人数
4月上旬	市との打ち合わせ、契約	3名
5月上旬	参加者募集	3名
6月上旬	参加者決定、担当等詳細計画の決定	4名
6月中旬	講座実施(月2回、もしくは週1回)計11回	各回3名
8月中旬	市への中間報告	2名
10月中旬	講座修了生での施設にて、傾聴ボランティア	2名
12月	フォローアップ講座	
3月	フォローアップ講座	
4月～翌年3月	市との月例打合せ 4月(チラシ等打合せ)、5月、6月、7月、8月、9月、11月、2月 計7回	各回3名

訪問傾聴ワーカー(見守り隊)養成講座 8回目以外、全てワークショップ形式

※ グループ形成をしやすくするため、全講座、始まりのチェックイン後、15分ほどの簡単なワークショップをし、
終わりも15分ほど、ボランティアについての注意事項等をした後、チェックアウトをし、シェアをする。

◎第1回 オリエンテーション(自己紹介等 簡単なワークショップ)

ボランティアってなあに？

ファシリテーター 影山貴大さん

内容-ボランティアだからって、やりたくないことはやらなくて良いの？

なぜ、ボランティアをしたいのか？など、ボランティアとはどんなものかについて学ぶ。

◎第2回 自分の中のバイアス

ファシリテーター 影山貴大さん

内容-自分の中、どんなバイアスがあるかを知る

◎第3回 障害者理解

障害者相談センター

内容-目に見えない障がいである精神障害の理解

◎第4回 高齢者理解

高齢者施設(六親会)

内容-高齢者がどんな心理でいるか、認知症について学ぶ。

◎第5回 傾聴ってなあに？

講師 奥野典子さん(産業カウンセラー)

内容-基本的な傾聴について学ぶ

◎第6回 傾聴ってなあに？～精神疾患、高齢者編～ 講師 奥野典子さん(産業カウンセラー)

内容-精神疾患の方や高齢者への傾聴の仕方を学ぶ

◎第7回 やってみよう！

内容-実際に高齢者施設などで、傾聴をやってみる。

一日で終わらせるのではなく、何日かに分ける。特養での受け入れ可能かを確認(高齢者福祉課)

障害者施設での傾聴も要検討。特養だと、認知症が進んでいる方が多いため、実習ではハードルが高いのではないかな？実習はデイサービスの方が良いのではないかな。

◎第8回 印西市の制度、サービスを知ろう！(午前・午後)

講師 印西市高齢者福祉課、障がい福祉課、社会福祉課、社協(久本さん、西畑さん)

内容-印西市の制度やサービスについて学ぶ

◎第9回 事例検討のワーク

講師 千葉さん(一般社団法人コレカラ・サポート)→もしくは、千葉県社会福祉士会

内容-3つの事例を通して、どう動いたら良いかをみんなで検討する。

①低所得の高齢者のケース(独居)、②子どもが引きこもり、もしくは障がいがあるケース(家族)

③認知症の疑いがあるケース(独居)

◎第10回 ロープレ、事例検討を含めた総復習、理解度確認テスト

内容-総復習とともに、傾聴の実技、事例検討の総復習と確認試験あり

確認テストでできなかったところ等、年度内にフォロー講座を開催予定

◎第11回 修了式 登録式

内容-修了式後、登録式

理解度確認テストにて、習熟度が低かった部分を重点的に、フォローアップ講座を年内、翌年3月あたりに行う。その際、傾聴のワークもする予定。